

2026.04.22

## 阪大とSEMIジャパン、半導体人材育成へ実践講座を開催 三菱UFJ銀行も登壇



初めて金融機関が参加した大阪大とSEMIジャパンによる連携講座

大阪大学は22日、三菱UFJ銀行から講師を招き、「半導体実践講座」を開いた。同講座は、文部科学省の半導体人材育成拠点形成事業「関西圏半導体人材育成共創拠点の構築」との連携で開講した。

圏の国立5大学（大阪大、京都大、神戸大、京都工芸繊維大、大阪公立大）を連携校とし、将来的には各大学へのライブ配信やオンデマンド配信も計画している。

22日の講座では、初めて「金融」をテーマに掲げた。三菱UFJ銀行半導体バリューチェーン推進室の中野慶三郎室長が、約90人の学部生や大学院生を対象に、金融業界の視点から見た半導体産業の構造や将来性について講演した。

同推進室は、半導体産業特有の構造やリスクを深く理解した上で、従来型の融資にとどまらない包括的な金融支援を行うことを目的に、2024年4月に設置された。中野室長が初代室長として同室を率いている。

中野室長は「理工系学生の就職希望先に半導体分野が入っていないのは残念」と強調。国内半導体産業の衰退の理由や将来性、人材確保について、1時間以上にわたり熱弁をふるった。

中野室長は、学生を相手に北海道に進出したラピダスを大型投資案件の例に挙げ、「半導体投資は地域の経済と密接に結び付く産業である」と指摘。金融機関は産業だけでなく、地域やサプライチェーン全体を見渡す役割も重要との認識を示した。また、金融機関も半導体業界がわかる人材が必要との考えも強調。従来の財務分析だけでなく、「デバイスや製造装置など各分野を理解できる金融人材が求められている」との見方を示した。

最後に中野室長は、「今日は半導体になじみのない学生の皆さんにも理解できるよう話したつもりだ。将来の進路を考える一助にしてほしい」と訴えた。

講座のまとめ役を担った大阪大学の渡部平司栄誉教授は、「回を重ねるたびに半導体業界に興味を持つ学生が増えている感じです」と感想を述べた。

大阪大とSEMIジャパンによると、5月の開催予定として、8日に村田製作所、13日にソフトバンク、20日にラピダス、27日にマイクロンメモリジャパンがそれぞれ登壇する予定だ。